



## 晩秋から春まで取れ、楽に栽培できるナバナ

板木技術士事務所 ● 板木利隆

陽春のころにぎやかに咲き乱れる菜の花よりもひと足早く、大きく膨らんだつぼみを持つバナが店頭に並びます。花蕾（からい）と若い茎葉を共に食べる野菜です。

近年は早生、晩生、多分枝性、耐病性（根こぶ病など）の品種改良が進み、晩秋から春先にかけて、長い間独特の苦味と軟らかな食感を味わえるようになりました。

土壌への適応性は広く、重粘土から砂質土まで栽培でき、育て方はやさしいのですが、冬中収穫するのですから、できるだけ日当たりの良い場所を選んでください。

種まきの適期は8月下旬～9月下旬までと幅広いですが、早まきは早生種を用いて晩秋からの収穫を狙い、9月に入ってから種まきは耐寒性が強く、分枝力の優れた品種を用いて、長

期にわたる良質品の収穫を楽しむようにしましょう。

畑は早めに苦土石灰を全面にまき、よく耕やしておき、植え付け前に元肥として完熟堆肥と油かす、化成肥料を全面に施し、15cmほどの深さによく耕し込んでおきます。

種まきは図1のように128穴のセルトレイに、1穴当たり3～4粒まきとし、育つにつれて間引き1本立てとし、本葉4～5枚の苗に仕上げて畑に植え出します。苗作りが面倒なら畑に幅のまき溝を作り、3～4cm間隔にじかまきして育ててもよいです。いずれにしても条間40～50cm、株間25～30cmぐらいの粗植とし、分枝を多く出させるよう心掛けます。

追肥は草丈が20cmほどに伸びたところから収穫期にかけて、生育の様子を見ながら15～20日ご

とに行い、次々と良い脇芽が伸び大きな花蕾が収穫できるよう心掛けます。

収穫は図2のように花蕾が大きく膨らみ、開花直前になったところに行います。全体の長さは10～12cmほどが最適です。短く切り過ぎると後から発生する花蕾数は多くなりますが、細くなりやすく、逆に長く切り過ぎると後から出てくる側花蕾数が少なくなり収穫量は減ってしまいます。

生育中にアブラムシやコナガなど害虫が発生しやすいので、早めに薬剤散布して防ぎます。育苗中や生育前期の草丈が低い場合には防虫ネットやべた掛け資材の被覆も有効です。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



図1 種まきの様子

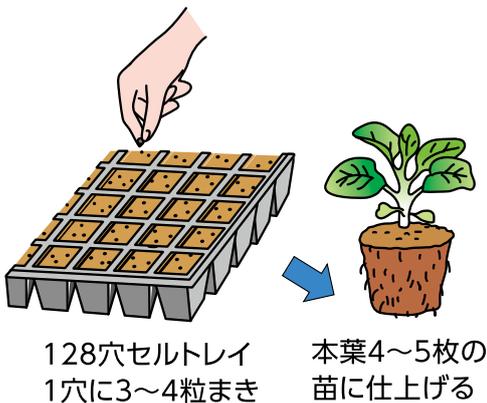


図2 収穫の適期

